

1 題材 感謝を表現しよう

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、題材「形と色の良い感じ」において、自分のイメージを色や形で表現する活動を経験している。そこでは、色や形がもつイメージに着目しながら、線の大きさや色の濃さで鑑賞者に伝わるイメージが変化するということを捉えてきた。このような子どもが、題材「感謝を表現しよう」においても、自分の願いや思いを表現するために、どのような道具や表現技法を使って、色や形を組み合わせるか、見通しをもって製作・鑑賞する活動に取り組めば、より願いや思いを伝えるためにはどのように表現すればよいか捉えていくだろう。

そこで、題材を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

＜題材について＞

本題材は、感謝を自分なりにイメージし、色や形を通して自由に抽象画を制作することを通して、願いや思いをどう表現するとよいかを捉えることができる題材となっている。ここでは、自分や友達が制作したものについて、イメージと表現の結び付きを伝え合う中で、造形的な見方や感じ方を広げることが大切である。そこで、自分の表現の意図を伝え合う活動を設定する。子どもは、同じ題材でも表現方法が異なることから、新たな創造的な視点を見いだしながら、見方や感じ方を広げ、願いや思いを表現するための創造力を身に付けていくだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元の初めには、感謝のイメージと色や形の組み合わせ方、道具や表現方法の使い方を結び付けて計画させる。そうすることで、一つ一つの表現に意味をもちながら制作することができるようにする。
- 単元を通して、作品のイメージと表現の結び付きの違いを伝え合う活動を設定する。そうすることで、新しい見方や感じ方に気付いたり見いだしたりして、自分の表現に生かすことができるようにする。

3 目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくり表したりすることができる。【知識及び技能】
- (2) 造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（総時数 6 時間）

次	学習活動・内容	題材の指導上の留意点
一 ②	○ 作品づくりの計画を立てる。 ・自分にとっての感謝の気持ち ・単元の見通し ○ 道具の使用方法を知る ・道具の使用法 ・表現技法	○ 感謝のイメージと色や形の組み合わせ方、道具や表現方法の使い方を結び付けて計画させることで、一つ一つの表現に意味をもちながら制作することができるようにする。 ○ 道具の使用法や表現技法を使った作品を提示することで、制作をする際の表現の幅を広げたり、必要だと思った時に自分で表現方法を選び取ったりすることができるようにする。
二 ④ 本時 2 / 4	○ 「感謝」をテーマに、作品づくりをする。 ・色や形がもつ感情の表現 ・イメージの表現方法 ● より良い表現のために交流し、作品づくりを行う。 ・色と気持ちの関係性 ・試行錯誤する楽しさ ○ 投影して作品で鑑賞を行い、自分のイメージを伝えることができたか話し合う。 ・気持ちを伝えるための表現 ・新たな創造的な視点 ・創造する楽しさ	○ 単元の中で、作品のイメージと表現の結びつきの違いを伝え合う活動を設定することで、新しい見方や感じ方に気付いたり見いだしたりして、自分の表現に生かすことができるようにする。 ○ 学習の振り返りや気づきを、単元を通して 1 枚のワークシートに記録させることで、単元のつながりを意識しながら、課題を設定したり、前時の反省をもとに試す表現方法を計画したりすることができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や行為を通して、形や色など感じが分かっている。 ・絵の具や筆、コンテなどを適切に扱うとともに、前学年までの道具を扱う経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、絵の具を塗ったり、スパッタリングをしたりして想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。	・つくりだす喜びを味わい進んで絵の具を塗ったり形を組み合わせたりして、表現しながら学習活動に取り組もうとしている。

6 本時案 ー第二次・2時分ー

- (1) 主眼 作品と計画書を照らし合わせながら鑑賞する活動を通して、自分と他者のイメージと表現の結びつきの違いに気づき、新しい創造的な視点を見いだすことができる。
- (2) 準備 電子黒板、ワークシート、画材、描画道具
- (3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 前時を振り返り、本時の見通しをもつ ・本時の見通し	ア 友達の作品を鑑賞して、自分と友達の表現の違いを知りたいな イ 自分と友達の表現の違いを見付けて、自分の計画書を見直せるとよいね	・前時までの学習を内容と活動から振り返らせることで、単元のつながりを意識し、本時の活動を設定することができるようにする。	5
2 作品を鑑賞し、計画書を修正する ・イメージと表現の結びつきの違い ・修正する方向性 ・新たな見方 ・作品の改善点	ア 友達は温かい気持ちを暖色中心に使用して表現していたな。自分も取り入れてみたいな イ 友達には、自分の色のイメージが上手く伝わらなかったよ。計画書を修正してみたいな	・友達からの感想をもとに計画書を修正させることで、より自分のイメージを表現することができるようにする。	20
3 修正した計画書を基に、作品を製作する ・意図した表現を伝える難しさ ・新たな表現方法 ・色と気持ちの関係性 ・新たなアイデア ・道具による表現の違い ・表現の可能性	ア 柔らかい表現にしたいから、四角の模様から丸い模様に変えたよ イ 線の太さを変えたよ。ありがたいの形を細い線から太い線にしたよ ウ 優しい気持ちを表現したいから、全体的に薄めの色を使ったよ	・画材や道具を自由に使える場を設定することで、自分のイメージに近い表現を多様な表現で試すことができるようにする。	40
4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ ・表現の課題 ・課題解決の方法	ア 実際に友達に確認しながら制作すると、今までは気付かない課題を見付けることができ、創造する意欲が湧いてきたよ イ 次の時間は、他の友達からもアドバイスをもらってみたいな。アイデアがさらに広がりそうだよ	・本時の課題や解決方法について振り返る場を設定する。そうすることで、次時の場や活動の見通しをもつことができるようにする。	45

(4) 評価規準と方法

自分と他者のイメージと表現の結びつきの違いを知ることを通して、新しい創造的な視点を見いだすことができたか、発言やワークシートの記述から見とる。

<メモ>